

## いきいきと学びをつくる子どもの育成

～ 算数科を通して、考える力を育む授業づくり ～

### I 研究の内容 (3つの柱をもとに研究に取り組む)

#### (1) 具体的な研究内容

##### ○基礎学力を身につける指導の工夫

- ・朝学習の充実 (算数は2日以上。1日は読書)
- ・家庭学習の習慣化 (「松小☆かがやきノート」の継続)
- ・タブレットPCの活用

##### ○学びをつくる指導の工夫

- ・具体的な操作活動や体験活動を大切にする。
- ・自分の考えをもつ場面設定や活動      ・絵や図、言葉や式を用いて考える得る活動
- ・伝え合う活動
- ・授業の構造化      ・板書の工夫      ・ノート指導

##### ○学びを支える取組 (確かな学力プロジェクト)

- ・学習環境の整備 (学習規律 生活習慣)
- ・集団作り (Q-Uテストの分析 児童の実態把握)
- ・意識調査 (子どもの意識や変容を知る)

—めざす子ども像—

いきいきと意欲的な子ども      考える子ども

基礎学力を身につける指導の工夫

学びをつくる指導の工夫

学びを支える取組  
確かな学力育成プロジェクト

## (2) 研究の方法

### ○講師を招いての理論研修(学習会)

「いきいきと学びをつくる子どもの育成」～算数科の授業づくりと教師の役割～

講師 山梨大学大学院教育研究科 准教授 一瀬孝仁

「授業にいかすタブレット研修会」

講師 山梨県教育センター 主幹指導主事 中村英彦

### ○「確かな学力」育成プロジェクトでの授業参観、学習会への参加

○Q-Uの分析とK13法、ヘルプサイン、ポジティブチェック、アタックシートへの取り組み

### ○部会ごとの研究授業提案 ○一人一実践

(1) 第2学年 算数科研究授業 「形をしらべよう」 平山 沙織 教諭

〈単元目標〉平面図形に親しみ、図形についての感覚を豊かにするとともに、三角形、四角形などの構成要素をとらえ、それらの意味や性質を理解する。

様々な図形から三角形と四角形を弁別し、定義を根拠に説明することで、図形の構成要素について確かな理解へと結びつける授業展開。さわったりさし示したりと意欲を引き出す導入、確認問題での丁寧な既習の押え。それらに支えられ、自分の考えをワークシートに書き込み、ミニグループで進んで伝え合い、説明する「学びをつくる」子どもの姿が見られた実践となった。

(2) 第3学年 算数科研究授業 「はしたの大きさの表し方を考えよう」 辻 毅 教諭

〈単元目標〉少数の意味や表し方について理解し、少数の加減計算ができるようにする。

1Lよりも多く2Lより少ない、はしたのかさを表すことで、「小数」という新しい概念の必要性や意味理解に挑んだ授業実践。タブレットを使った導入、水とうや色水、ワークシートなどの教材教具の工夫から授業に引き込まれて課題に向かう姿が見られた。一人一人が自ら考え表現し、方法や意味を問うことで「新しい概念との出会い」がより豊かなものになる事が明らかになった。

## II 成果と課題

- ・「基礎学力」を身に着けるために、朝学習の習慣が図られた。また、自主学習のメニューを教科中心に再編することで、「松小☆かがやきノート」(自主学習ノート)の充実に取り組む事ができた。他者評価や校内掲示なども意識を高めることに繋がった。
  - ・「学びをつくる」には、導入において教材教具、タブレット活用など視覚に訴える工夫や既習学習の支えが大切であると共通理解できた。また、課題理解と解決の見通しが図られ、進んで考えを伝え合う授業展開や、子どもの疑問や気付きを問い返す教師の関わりも、学びづくりの手立てと確認できた。
  - ・Q-Uや意識調査を活用することで、変容や成果が得られた。「いきいきと学びをつくる子どもの姿」をめざし組織的に実践的に継続的に研究に取り組む基礎ができた。
- △「学びをつくる」具体的な支援について。発達段階に応じた、見通しの立て方や伝え合いの深め方について。アティブラーニングを取り入れた授業展開や教師の関わり方について。

## III 成果物

- ・算数アンケート(低学年 高学年ごと 2回の意識調査と分析)
- ・自主学習メニュー(低中高で作成)
- ・研究授業指導案
- ・実践事例指導案

(研究主任 金子 佐由美)